

※本文内の()内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

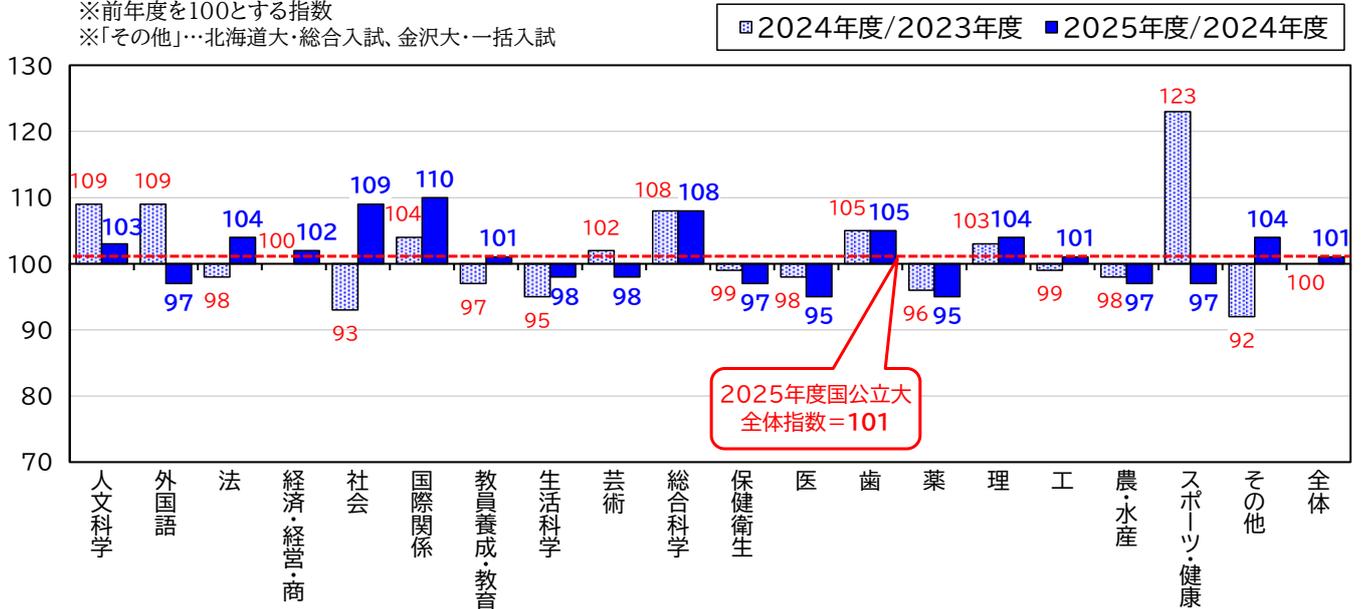
◎系統別志願状況

□国際関係、社会、総合科学は増加

医、薬、外国語、保健衛生、農・水産、スポーツ・健康はやや減少

※前年度を100とする指数

※「その他」…北海道大・総合入試、金沢大・一括入試



国際関係(110)、社会(109)、総合科学(108)は増加、歯(105)、法(104)、理(104)、人文科学(103)はやや増加でした。一方で、医(95)、薬(95)、外国語(97)、農・水産(97)、スポーツ・健康(97)はやや減少でした。これら以外の5系統は前年度並でした。2年連続増加したのは人文科学、国際関係、総合科学、歯、理の5系統で、2年連続減少したのは生活科学、保健衛生、医、薬、農・水産の5系統でした。

文系の系統では、横浜市立大(159)、東京外国語大(120)などの大幅増加が影響し、国際関係(110)が増加しました。今後の需要が見込まれる福祉関係の学部・学科が含まれる社会(109)も増加しました。一方で、外国語(97)はやや減少で、北九州市立大(81)、大阪大(90)などの減少が影響しました。

理系の系統では、富山大(193)、学部改組の秋田大(303)などの大幅増加が影響し、理(104)は増加しました。一方で、近年増加傾向だった農・水産(97)はやや減少で2年連続減少となりました。

メディカル系は、歯科医師数の減少が発表されたこともあり、歯(105)は3年連続増加しましたが、医(95)、薬(95)は減少でいずれも2年連続減少となりました。コロナ禍の中、人気が高まった反動が影響していると思われます。保健衛生(97)も2年連続減少となりました。

文理いずれからも志願者がいる系統では、情報系を含む総合科学(108)は、学部・学科が多く新設され増加しました。一方で、スポーツ・健康(97)は前年度志願者が集まった反動でやや減少しました。

最後に、複数の系統を一括募集するその他(104)は、金沢大一括入試が文理合計で(125)と前年度大幅減少した反動で大幅増加したことが影響して増加となりました。